道徳の時間で活用する
～家族愛、家庭生活の充実～

萩市立萩西中学校　中村　好宏

1　本場面におけるポイント

● 発問に対して、自分の意見をまとめる。

家族に対して反抗的な態度をとりがちな中学生の時期、家族に対して自分がどのような態度で接しているかを振り返らせながら、家族の思いや有難さを感じ取る。

● 班で話し合い、意見を絞る

班員それぞれの意見を聞き、自分の考えを深める。

● 班ごとに意見を発表する

それぞれの意見を聞き、クラスメイトの考えを共有する。

2　授業の実際

1　主題名　家族愛　「資料名　誰かのために」

2　ねらい

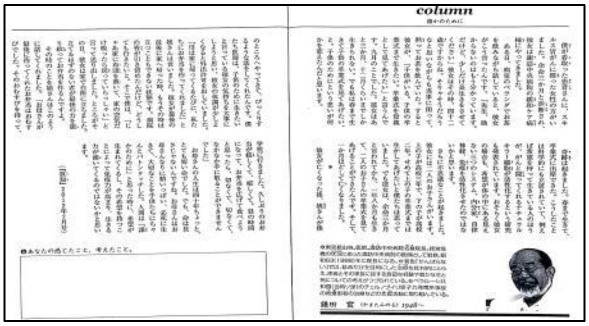
家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していこうとする心情を養う。

3　展開

（1）導入　資料を読み、個人の考えをまとめる。

教　師：	**通読後「余命３か月と言われたにもかかわらず、１年８か月も生きることができたのはなぜか？」書かれていることではなく、皆さんがどう思うかを考えなさい。**
生徒Ａ：	どうしても生きたい。
生徒Ｂ：	子どものために生きたい。
生徒Ｃ：	卒業式を見届けたい。

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等
資料を読ませ、母親の思いの強さを感じ取らせる。


column

（2）展開　班で意見をしぼる。

教　師：	**自分の考えをもとに、班で意見を一つにしぼりなさい。**

□　指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

班で意見をしぼる際は、多数決等で安易に決めるのではなく、自分がそう考える理由等を班員に説明し、班員を納得させた上で意見をしぼるよう指示する。

（３）終末　班でまとめた意見を発表し合い、教師の説話を聞く。最後に感想をまとめる。

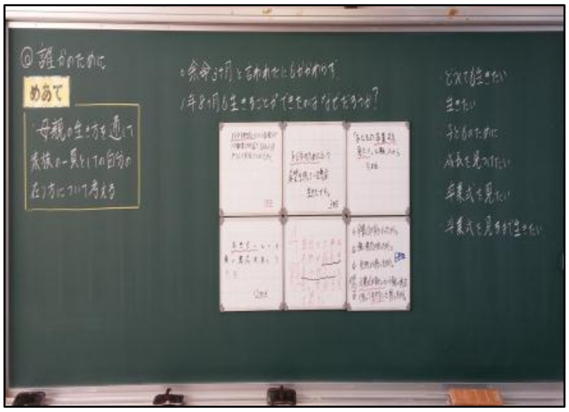
教師：班でまとめた意見を発表しなさい。

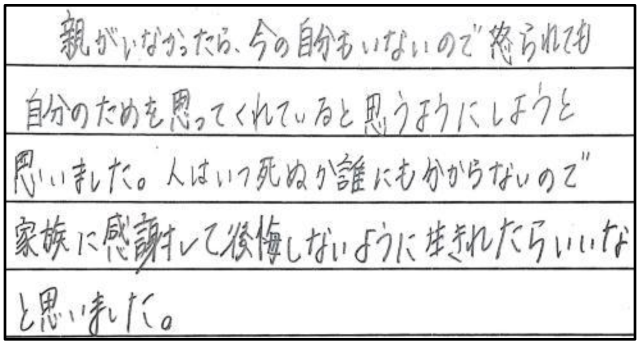
班Ａ：子どもたちのために、という希望をもって一生懸命生きたから。

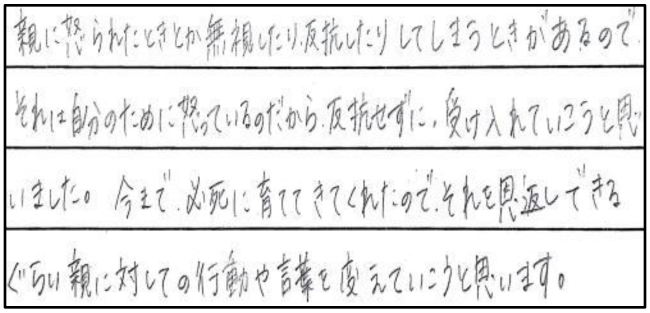
班Ｂ：大切な子どもの成長を見届けたいと思ったから。

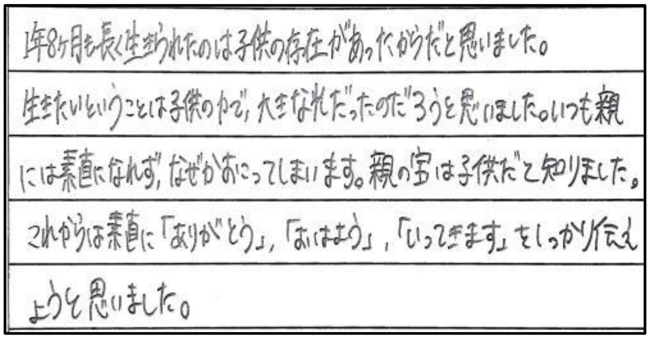
教師：君たちは、反抗期を迎え、家族に対して素直になれずに、「ありがとう。」が言えなかったり、「おはよう。」、「ただいま。」などのあいさつもなかなか口に出せなかったりするのかもしれない。でも、家族以上に君たちのことを思っている人はいない。家族の一員としての自覚をもって、できることがあれば率先して協力していくことが大切です。吉田松陰も「親思う心に勝る親心」と言っています。

教師：感想をまとめなさい。




親がいなかったら、今の自分もいないので怒られても自分のためを思ってくれていると思うようにしようと思いました。人はいつ死ぬか誰にもわからないので家族に感謝して後悔しないように生きれたらいいなと思いました。


親に怒られたときとか無視したり反抗したりしてしまうときがあるので、それは自分のために怒っているのだから反抗せずに、受け入れていこうと思いました。今まで必死に育ててきてくれたので、それを恩返しできるぐらい親に対しての行動や言葉を変えていこうと思います。


1年8ヶ月も長く生きられたのは子供の存在があったからだと思いました。生きたいということは子供の力で、大きな力だったのだろうと思いました。いつも親には素直になれず、なぜかおこってしまいます。親の宝は子供だと知りました。これからは素直に「ありがとう」、「おはよう」、「いってきます」をしっかり伝えようと思いました。

３　実践を振り返って

心理カウンセラーである阿波ひろみ先生を講師に招き、文化講演会「命をみつめて～この世に生まれてきてくれてありがとう～」の人権参観日を開催した。講演を聞き、それぞれが命の尊さと家族の一員としての自分について考えることができたため、次時の道徳の時間に「私たちの道徳」P184に掲載されているコラム～誰かのために～を用いた授業を行った。

講演会の内容とリンクする部分もあったため、生徒は真剣な表情で授業に取り組んでいた。

「私たちの道徳」には、読み物資料以外にもコラムやこの人のひと言などの資料が多数掲載されているので、道徳の時間だけに限らず学校行事の事前事後の学習や学級活動などでも活用していきたい。